

鎌倉期の特筆すべき尼僧

中世日本研究所研究プロジェクトについて

無外如大禪尼の生涯とその遺徳を伝える

中世日本研究所 研究室内長 パトリシア・フィスター

中世日本研究所の女性仏教文化 称と思われる

史研究センター(京都)では、近年、無外如大禪尼(1223-98)に焦点を当てた調査研究プロジェクトを行っている。如大尼は高名な中国僧、無学祖元(仏光國師、1226-86)に師事した鎌倉時代の尼僧である。無学祖元は如大尼を法脈継承の弟子として認め、頂相画とともに、自らの袈裟を譲った特筆すべき尼僧だった。その頂相画は残されていないが、無学祖元の如大尼への讃が『仏光國師語録』に書き記されている。

如大尼 請讀 景愛寺長老 入仏三昧魔王遠却、入魔境界亦不著、 藕絲髮真拓乾坤、石火光中定奪 自白、 塗毒鼓聲震大千、摩醯眼電光閃 爍、 南北東西仏手驢脚、未後一句分付 無著(筆者注・無著は如大の別呼

無学祖元の法脈継承の弟子



「無外如大尼像」臨濟宗相国寺派 眞如寺(京都市北区)蔵

女性のための景愛寺開山

京都の法灯、今なお守り継ぐ

記されたもの、もう一つの重要な資料は、現存していないが如大尼の頂相画に書かれていた絶海中津(佛智廣照國師、1334-1405)が書き残した拈香である。1398年に如大尼の百年遠

某機辯縱横高提三常照(無学祖元)心印。 知見廣大新開景愛靈場。 其門庭施設峻峻。其胸次波瀾汪洋。 取一則雄峯一而重叢席。同二風

論

越していったのである。 無外如大禪尼が開山である京都の景愛寺は、女性のための修練と受戒のために創建された広大な寺院で、唐時代の百丈懷海禪師(720-814)の規律に基づいて厳格な規則を確立したと伝えられている。景愛寺のネットワークは徐々に拡大し、多い時には15以上の塔頭寺院と子院を擁していた。後に尼寺五山の中で最高位に位置付けられた景愛寺は、將軍により選ばれた高貴な女性の住持によって率いられた隆盛した。景愛寺は応仁の乱後の1498年に焼失し、再建されることはなかったが、京都の尼門跡寺院(大聖寺、宝鏡寺、宝慈院)が、景愛寺の法灯を今なお守り継いでいる。また、深

その法堂内に如大尼の彫刻肖像が祀られている。制作年月日は不明だが、1627年12月に修復された記録があることから少なくとも16世紀に、おそらくはそれ以前に制作されたと思われる。経年劣化が著しく早急な修復が必要。2022年までに完了する計画で、この6月から修復が始まった。この像は、如大尼の人格そのものと禪師として崇敬の対象であり続けたいことを伝える重要な像である。修復は、仏像彫刻修復の専門である公益財団法人国宝修理所美術院によって行われる。

江戸時代初期、後水尾天皇の皇女で、宝鏡寺の住持であった仙寿院宮の菩提を弔うために、後水尾天皇が如大尼ゆかりの眞如寺を仙寿院宮の墓所とした。それ以降、眞如寺は宝鏡寺の菩提所となった。また、皇女尼僧のお墓と共に、江戸時代の門主の4体の肖像彫刻も法堂に安置されている。無外如大尼像をはじめ、尼僧像が計5体も祀られているのは、稀有で貴重なことである。

これらの尼僧肖像の1体は、宝鏡寺の中興である後西天皇の皇女、徳嚴理豊(1672-1745)である。無外如大尼の遺徳を護り継承するために、彼女は如大尼に関連する資料を熱心に集め、漢文と平仮名の両方で、如大尼の伝記をまとめた。また、眞如寺の法堂内に如大尼の彫刻肖像を安置するための場所を増築し、諸々の仏具も寄進した。

今では如大尼についての歴史的な事実がフィクションと混同している。歴史的な文書を再調査し、彼女の遺徳を適切に記録できればと考えている。研究チームには若手研究者にも参加を要請し、さまざまな分野の専門家でチームを編成し研究が行える体制をANOJAI



パトリシア・フィスター氏 国オハイオ州出身。日本美術史専攻。国際日本文化研究センター名誉教授。主著に『尼門跡寺院の世界―皇女たちの信仰と御所文化』(共著)、『尼門跡と尼僧の美術』(近世の女性画家たち 美術とジェンダー)など。

この追悼文の中で、絶海中津は、禪の尼僧として、また法法の師として如大尼を称賛し、彼女を模範的な4人の中国の尼僧(摠持、無著「妙總」、劉鐵磨、末山了然)と同じ高みに位置づけている。彼女はまた、男僧の禪の修行精神を積極的に維持したとして称賛され、最終的には男女の性を超越

文化の象徴としての尼門跡寺院が、この時代に消滅してしまえば永遠に失われてしまう。文化力の指標としても尼門跡寺院が存続していることを願い、日本国内及び国際社会においても認知されるよう、多くの方々や組織と連携しながら活動を継続している。

中世日本研究所のホームページアドレスは<http://www.chusei-ini.net/>